

HAYST法のテストプロセスと アーキテクチャ

富士ゼロックス株式会社

秋山 浩一

HAYST法とは

機能の確認とロバスト性(機能性)の評価

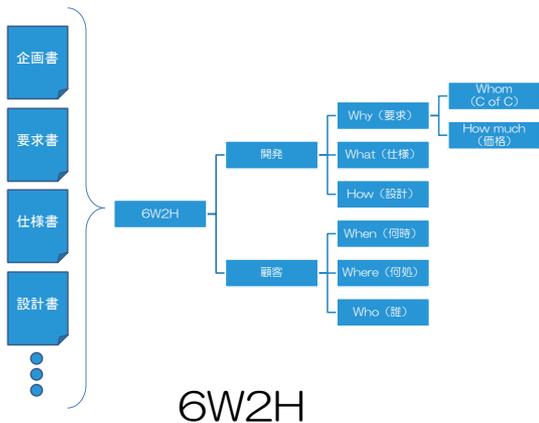
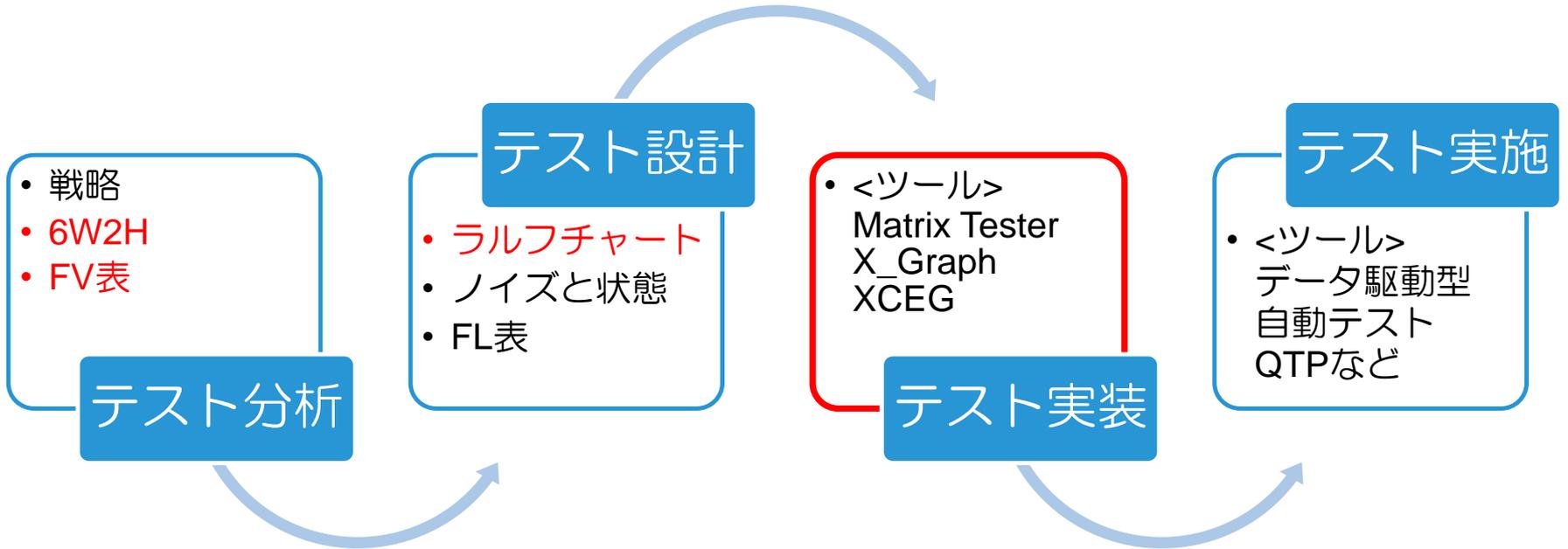
＜前提＞：単機能テストは終わっている
システムテストが対象の中心



信号因子の「組合せ」「順序性」で機能を確認、
ノイズ(=誤差因子)の影響をロバスト性で評価

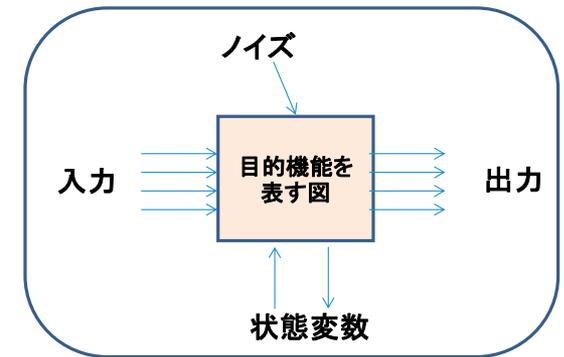
信号因子：入力、状態変数で結果を得るための入力
ノイズ：いじわる要因で結果に影響を与えたくないもの

HAYST法のプロセス



No.	Fr	V	T

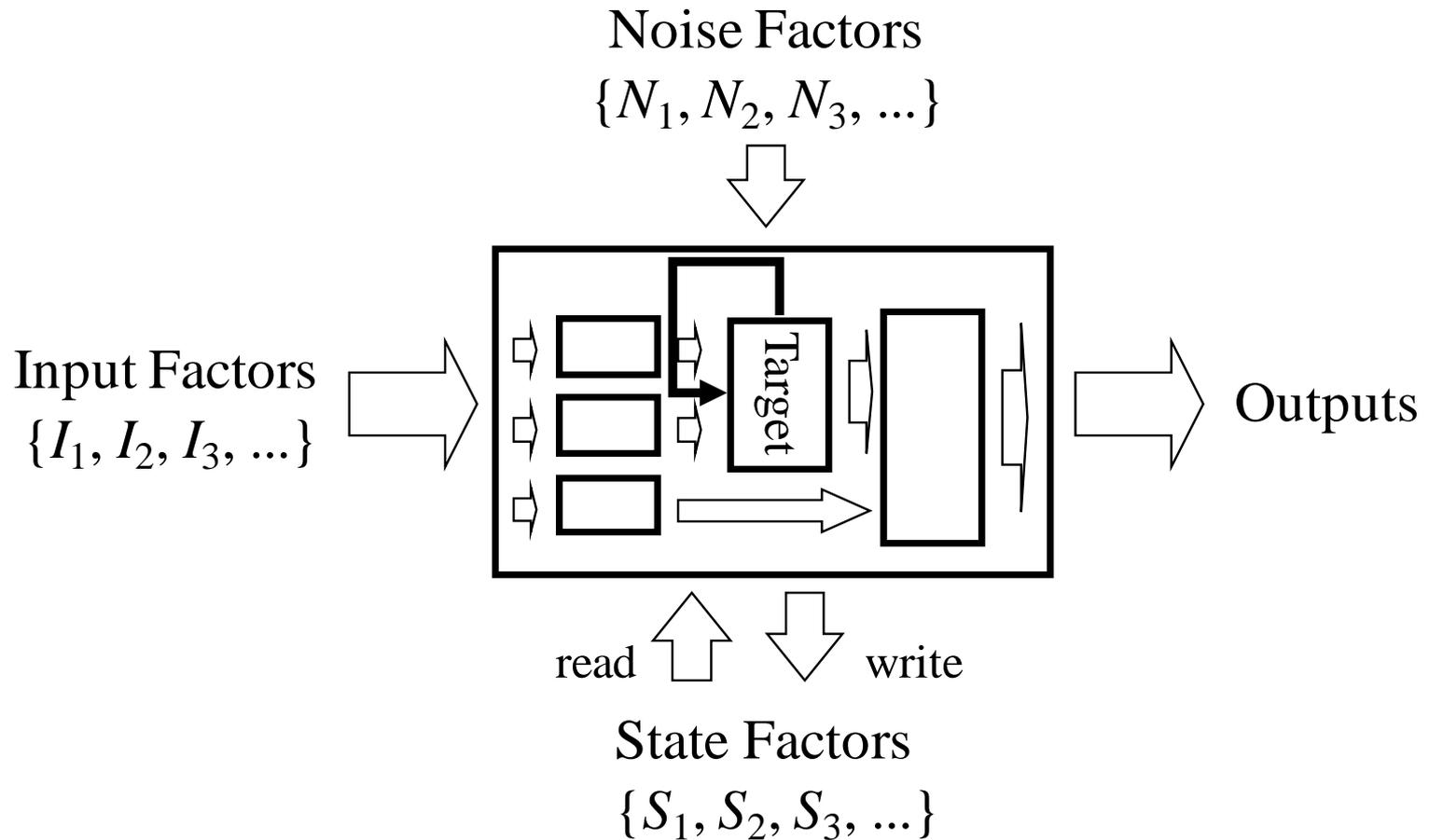
FV表



ラルフチャート

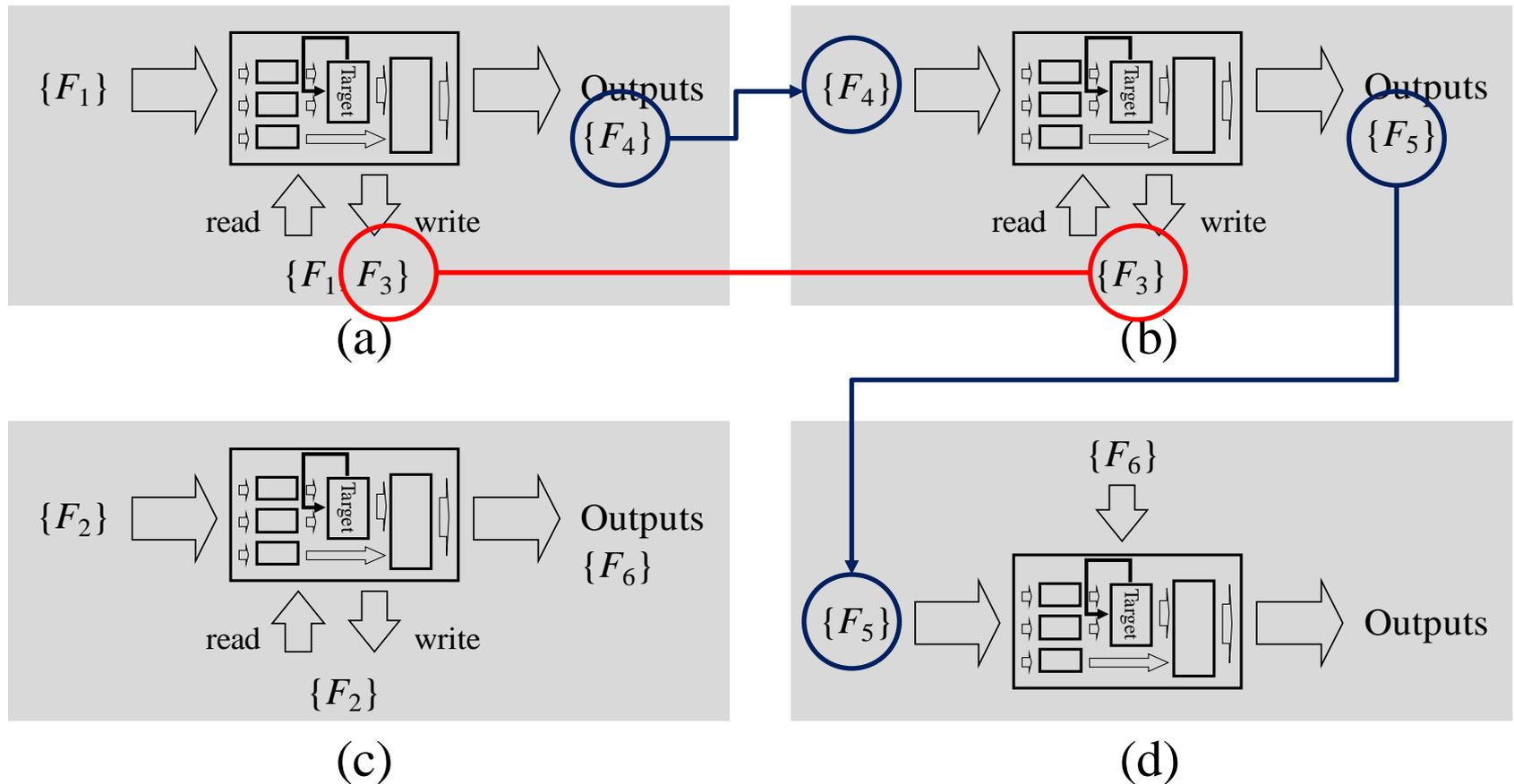
ラルフチャート

(=FV表で認識した目的機能)



ラルフチャートの組合せ (目的機能の構造)

(a)(b)組合せ連結、(a)→(b)→(d)順序連結



HAYST法の技法選択

組合せと順序性のテスト

		順序			
		無則		有則	
		確証あり	確証なし	ループ無	ループ有
組合せ	無則	確証あり	・ 単機能テストのみ		
		確証なし	・ ペア構成テスト	・ ペア構成テスト +シーケンスカバ リングアレイ	・ ペア構成テスト
	有則	禁則	・ 防御的プログラミング(入力フィルタ) → 入力限界値テスト		
		有効則	・ 原因結果グラフ	・ CFD法	・ 機能図式 ・ ペア構成+N- SW